

Exhibit No.

JPS doc No 3510-A  
Item 15

閣甲第三九號		起	昭和十五年九月三日	總裁	昭和十五年九月三日	施	昭和十五年九月三日
内閣總理大臣	(蔵)	内閣書記官長	(田中)	内閣書記官長	(田中)	内閣書記官長	(田中)
内務大臣花押	陸軍大臣花押	文部大臣花押	逓信大臣花押	厚生大臣花押			
大藏大臣花押	海軍大臣花押	農林大臣花押	鐵道大臣花押	星野金重總裁	星野金重總裁		
司法大臣花押	商工大臣花押	郵政大臣花押	殖產大臣花押				

別紙企画院總裁上申  
付南方發展施策二件  
右密議二件

通牒 宅木

昭和十五年九月三日

内閣書記官長

企画院總裁

昭和十五年九月二日上申(企画院上申第一七號)付南方發展  
施策二件上申、通密議決定相成候

JPS Doc. No. 3510-A  
Item 15

主任官 第一部 通情調查室

企畫院上甲第一七二號

昭和十五年九月一日

企畫院總裁 星

野 直

企  
畫  
院  
總  
裁  
印

內閣總理大臣公會近衛文麿

辰

對南方發展施策案三件

新情勢即應之對南方發展三案左記施策事項別紙，通過決定相成，故度右本院宣制第一條第一項第一號二依，此段及上申候

記

一、對佛印支經濟發展，為施策

一、對佛印支物資取得，即貿易方策等領

一、對南方航空政策要綱

P.2

P.3.

IPS doc No 35/10-A  
Item 15

極社

對佛印支經濟發展，爲施策

世界新秩序、進展伴隨經濟圈產生，必然性を確認し、  
共同共榮、大局的立場を基本とする佛印支經濟的  
緊密化の國、皇國を中心とする大東亞經濟圈、一環  
を実現するに期し、差当左記要領を  
施策スルモノトス

一、現在邦人、經濟的活動ヲ阻害スル諸種制限的  
措置(別冊資料参照)ヲ撤廃又緩和シ邦人、經濟  
的活動ヲ優先シテ自由活躍ナシムル如ク努力  
シト

二、皇國、必要スル重要物資ハ可及的大東亞圏内  
ニ確保シ以テ英米ヨリ資源的獨立ヲ圖ルノイ、佛印  
支對モ邦人企業、創設及經營等特別ナル  
便宜、供與ヲ要求スル共ニ皇國必須、重要物資  
ヲ優先的ニ皇國ニ輸出ナシムル如キ貿易協定、  
設定スルコト

差当リ佛印支ニシテ米、石炭、灰石、アゲン、工業鹽、  
錫、生コム、亞鉛、矽砂等ニシテ輸出保障モ電求スルコト  
尚進シテ八皇國指導ヨリ貿易管理、実現見ル如  
努力コト

三、佛印支ヲ通ズル雲南、廣西、貴州等周辺地、重要物資  
取得シキモノ、適當措置ヲシムルコト

四、皇國製品、對佛印支輸出増進ヲキ協力提携スルコト

IPS No. 3510-A  
Item 15

- 五、將來代大東亞諸流域，併也皇國事心，大金融圈  
設立目標，佛印支新金融關係，設定行動之方  
環，不以如努力，但佛印支自修心之圓地域，  
莫不自上而下。
- 尚佛印支銀行等，資本外側，對經力金融上，便益  
修與心，十人，進三會國指導三心的督統制，  
富良，心如努力。
- 六、交通及通傳國內，大東亞全局指導的地位，確保人  
環，年在，特殊權威，設定努力。
- 八、沿岸貿易權，不開港入港權及港灣設置，經運及  
利用權。
- 只海產電線，陸揚及運用權，國內通信，並經管對  
人參用權，他通信權。
- 八、定期航空路，新設空長及航空保安施設，設置權。
- 七、水產業本國之公商為，確固，初步建設，大漁業  
根據地，設置其他水產業，經營三件，權益，權得  
努力。
- 八、佛印支於心平三國機械圈，新規，設定，許可，  
共，既行，心連之，雖不心如努力。
- 九、佛印支對內外經濟政策，樹立及實施，參照，皇國  
上，經濟的，擴大，強化化為，佛印支側，本邦人，加今  
此經濟委員會，其他，當九機團，設立心下  
的貿易、金融、稅制，與三國上，經濟協定，企業  
交通、通信等，開三，右機團，諮詢，被允，十八人

- 一、華僑、後將抗日能成二對手、佛仰支當局、嚴重化取  
締、要重心共二一方、經濟的地位、全局的立場
- 二、二組織及資力、利用、策心コト  
皇國、經濟的發展、期心有、土着有力者、皇國招  
致、又、皇國、宣傳正確セシム等諸般、參置  
講心コト
- 三、經濟施設、大東亞共榮圈確立、全局的立脚点  
コト、皇國、利益伸張、土民、民生上調心如、  
努力心。

## 備考

### (参考資料)

佛領印度支那於企事業人國領事館之國領制管措置

#### 一、企業及國領制管

佛領支那企事業及國領制管國人、企事業民僑人領民一般外國人、向諸種差別不、企事業於凡那人、其民僑確保在尚三部企事業諸種制限、檢舉佛國人企事業、皆遇有禁令三心要了。

以下企事業關係上國關係上分于一般外國人課セラ居制限ヲ略述入シ

##### (一) 企事業關係

###### (1) 土地所有

文此那河内、海内、川、山、アバニ、諸市於本國該適用セラ外國企事業有權有據、居心其他、保護領於、各地有其該規定從其、取扱一居ラサル如。

官有地租借個人場合於、佛國人同籍民又保護領、限乙法人場合於、佛國法人之佛國省本多過半占、本社佛國、同種民地又保護領內有且一段及取締管過半數佛國人同籍民又保護領民凡ノ

###### 主要人

六、獲得、私有地買収、最天使ストモニ方法依リテ、會社等依ル大規模事業創設場合、充分な面積ヲ取得シ得ルコト甚疑問ナリ。

## (1) 鑛業

(1) 試験權國籍ヲ個人又會社ニテ取得スルヲ得  
鑛山採掘權所有者占有者又採掘者ニ就テハ、  
土地所有ニ關スル第ニ項制限同様モ、ガ適用ニシ居状  
態ナリ。

## (2) 林業

(1) 編入林(保護林地方又公共所有モ)普通代林州長官  
行列代林總督承認ヲ要ス  
(2) 保育林代保及林產物蒐集禁止モ)代保二林  
野局長承認ヲ要ス  
(3) 特別林(個人所有モ)代保公牛宣言ナリ限リ許可マ  
ラル天豫人州長官ニ申告スルヲ要ス  
編入林又保育林代採物賣賣公入札法依リ且入札  
者個人場合佛國民同籍民又保護領民會社場合  
合佛國法依リ設立ラレ本社佛國同種民地或  
保護領内ニ有且社長又取締役過半數佛國  
人同籍民又保護領民クルモニ限ル。

## (2) 水產業

蒸動機有外國船舶附屬船倉ム佛領印度支那  
領海於テ漁業ニ從事スル禁止ラム代船舶毛豫人  
開稅局登録、航海稅ヲ納付スルコトヲ要シ且ソ、渙獲

物貿易輸入税ヲ課ベル。

(b) 莫代

外國人ハ通商代理人、船舶運送業、海上運送代理業者、  
通信業、請願巡査官、取扱業、同施業、武器彈薬  
商、ラジオ電気器具業、印刷業、旅館業、遊戸飲食  
店等ニ從事スルヲ得入。

尚一九三四年總督令二條外國人雇傭二月ノ制限ヲ

"外國人雇傭者ハ大体ニ於テ全雇傭者、三割三分ヲ

超過ニコトヲ得サルコトナリ居シリ

(c) 入國關係

(i) 入國ニ就テ本國佛領印度支那政府向ニ於乞旅  
券查證明相互廢止、取極ニ依テ旅券、查證ヲ要セサ  
リシトヨロ第三次歐洲大戰勃發以未查證制復活シ且  
本邦駐在佛國領事ニ就テ右查證ニ付佛印五個總督事  
前許可ヲ要スルモノ

又非移民移民ヲ通シ入國税、保證金、手數行納入  
定シ、移民ニ就テハ更ニ本國歸還費上手、寄託金  
手話ヲ寄託スル事アリ(但シ寄託金總額事官館、證  
明ニテ免除セラレ居シ)

四ヶ月又内一時的滞在者ヲ除キ其他モハ身分証明書下附手数料ト美六十比昂(ニナリ有効)納入スコトヲ要ス

## 二、貿易ニ關シ利限

佛印支、貿易政策ハ佛本国利益擁護ヲ第一トシ佛印支市場ヲ全、佛本国、壟斷ニ委シ佛本国以外、國殊ニ佛本国ト競争立場ニアリ諸國極力抑圧制限シ甚伸展ヲ妨止スリテ根幹トス。左ハ佛印支ニ輸入セラルミハ佛本国品ハ無税、無利限左ニ反シオニ国品ハ有税率従、直替補償附加税及輸入割合等ニ因各種利限ヲ加ヘラレ国内之、利益、一切顧慮セラレズ左邦綿布、雜貨等、サキ土人、購買力ニ相応シ実需大在ニ拘ニス人厚のニ利限セラシタル実状ナシ以下佛印支政府、執久貿易利限措置ヲ略述スレ

### (一) 输入利限

#### (1) 保護関税

保護関税ハ佛印支、输入防遏策、最も重要手段ニシテ関税法上佛印支、原則トシテ本国ト同一関稅制度ヲ布キ一般(最高)及最低税率、複関稅制ヲ適用ス又税率ハ全トシテ從量稅アル商品、種類ニ依テ從價稅ヲ併用シテリ而テ外國商品输入際シ無條件約国六一般稅率ヲ課シ條約国六協定ニシテ最近稅率一部又ハ中間稅率ヲ適用シ居處稅率ハ甚タシク高率ニシテ最低稅率モ既ニ相立度、保護關稅ナニ加ヘ一般稅率ハ概不最近

稅率，一月乃三四倍三至六倍不等的稅率下  
本邦貿易付於一九三三年十一月十二日中印度支那商  
國稅關邊境總管署之結果在那商品一部  
印度支那於于累他稅率乃至半向稅率適用  
之會計上半外貨物在那重要輸出品多數  
協定稅率引除外貿署一般稅率極低  
輕微，則引文字有之並非外債國側：大  
協定成立後歲許天下本邦商品關係多數  
稅率付連續的一般邊最低稅率，引在那  
稅目，實在依此開辟，引上之行之結果在那  
品向國向輸去之協定為上同前理由言本協定  
總結自標之今沒却言此至之

#### 四、互替補償附錄

佛國政府一九三三年日，係印支河渠稅協定之步  
二除之當時「アヌム山價」用貨付可當萬鈴（當時  
萬鈴相場一元不外付銀價一千錢）之後，  
之理由上本邦商品計互替補償附錄稅  
賦課率取之確合衡，結果織織物、磁器、紙  
花大、小、心形品等數目二何類織物計  
從價二割五合其他二對之割五合互替補價  
稅賦課率二十化力其後佛國側之價，即  
二件アヌム山價一下落，每自發的織織物二計  
互稅率二割其他，協定兩目二割互稅於ラ律  
六分二天引下之是最近三年內。アヌム山價八

大体九十錢合二下三倍之從事本邦設立理由、  
消滅之次第。

(一) 輸入割半

佛印支政府每年輸入貿易外國產綿紗布等計  
總括的實量是定人右次外，輸入禁止之書之為  
本邦輸出品，大宗多以綿布、大打織等之類。

(二) 輸出制限

① 輸出許可制

佛印支政府食料、米、玉蜀黍、譜譜、棉花、石  
炭、金銀、易、亞金、滿金、其他各種領產物等  
輸出許可制，實施之輸出者，申告之。

## (四) 輸出税

佛印文主要產物タル米、玉蜀黍、鐵鎌、圓籠、石灰灰等ハ從  
價三分乃至五分、輸出總額課セラレバ為右貨貿ノ多  
量買付ヲ要スル我國人甚大ナル實害ヲ蒙ガリ居レリ

## (三) 爲替管理

佛國政府ハ一九三九年九月九日附佛國緊急大統領令  
大藏省令及植民省令ヲ以テ資本輸出、為替及金、取  
引制限禁止三閑スル法令ヲ公布ニタルカ本令ハ佛印ニモ通  
用セラシ九月十日以後佛印内ニ於テハ許可ナシテ資本  
輸出ヲスコトハ禁止セラレ為替取引ハ在巴里特設為  
替管理局、指揮命令ヲ受クル在西貢為替管理局、  
許可、下ニシ行ハルニ至リ

尚佛印ヨリノ輸出品ニ對スル為替ニ付于ハ前揭管理局  
ハ決定ニ基キ大小ヲ問ハス、一切米貨ヲ以テスルニ非ヒハ許  
可セラシス右布決済ノ單ニ特定商品ノミニ限ラス原  
則トシテ一切ノ輸出品ニ對シ適用セラレ、從來便法的措  
置トシテ許可セラシ居タル磅貨ハ一切許可セス嚴重  
弗貨決済ノミニ限ラルニトトナリタル結果對本邦貿  
易ニ不勘支障ヲ及スニ至レリ

J. P. S. 1900. 11. 10. 35-1  
Item 15

## 極秘

## 對佛印支物資取得之三貿易方策

佛印支ヨリ物資取得、方策二二八物動計畫、實施  
確保ヲ中心スル應急方策下資源、開發ニ重視ヲ置  
恒久方策ト三分ツ、考究スベキモ、十九處差古田リ  
應急方策トニテ左、措置ヲ講ハル、要アムモノトス

- 一、輸出物資ニ付對日供給ヲ優先的ニ確保シムコト  
佛印支ニ於テ生産又ハ集荷セラル物資例ヘバ鐵  
鑛、マンガン鑛、タンクスチノ、錫、アンチモン、亞鉛、  
珪砂、燐灰石、生ゴム、無煙炭、工業鹽、漆、松脂  
米、玉蜀黍、牛皮等ニ付テハ本邦ニ對シ其ノ必要  
量、優先的供給ヲ爲スコトヲ佛印支政府ニ保  
證セムル等、措置ヲナクアリ要トス

- 二、輸出關稅ヲ撤廈セムコト  
現在佛印支ヨリ米、玉蜀黍及珪砂等、輸出  
ニ付テ、輸出稅ヲ賦課セラレ居ル爲輸入價格  
ノ甲騰ヲ來ニ居ル現状ナルヲ以テ之ヲ撤廈  
セムル、要アム

- 三、佛印支周辺地域ヨリ物資、取得ヲ圖ルコト  
佛印支周辺地域例ヘバ雲南、廣西、貴州等各省  
ヨリハ銅、錫、アンチモン、タンクスチノ、其他、物資  
ガ佛印支ヲ經由シテ第三國ニ搬出セラレ居リタル  
ヲ以テ之等、系路ヲ利用シテ周辺地域、物資、

P. 14

J.P.S. Doc. No. 3510-A  
Item 15

取得ヲ圖ルト繁要ナリ、而ニ于其具体的方法  
三付子ハ別途考究スルモノトス、尚本方案策ハ今  
後共恒久的ニ之ヲ實施スルモノトス。

四、本邦側、物資獲得二付子ハ其代金、極力  
本邦ヨリ、輸出價物代金ヲ以テ決済入ル様措  
置シ之ガ為本邦物資、輸出計畫ヲ確立ス  
ルコト

我が國現下、為替資金、實情ニ鑑、佛印支ヨリ  
輸入物資、代金ハ極力本邦ヨリノ輸出物  
資代金ヲ以テ決済入ル様輸出、増進ヲ圖ル  
コトトシ之ガ為本邦品如ニ對スル輸入關係ノ  
引下乃至極度、輸入割高、增加乃至流止ヲ  
為サシテ少クトモ我が國ヘ、輸入額上同程度度之  
本邦ヨリ、輸出ヲ圖ル様輸出計畫ヲ確立スル  
モノトス。

尚我國為替資金、節約ヲ圖ル爲ケント、設定  
團為替三條ハ決済、一々制度、清算制度、實施  
等凡ニ方法ヲ講ズベキモ佛印支ニ於ル通貨金融  
制度、基礎ヲ破壊セサルヤウ措置スル、要アリ  
五、佛印支ニ於ル邦人貿易商、進出、統制ヲ為合  
佛印支ニ於ル邦人貿易商、進出、統制  
ニ佛印支物資、輸入商及本邦ヨリ、輸出商人  
該會的進出ヲ抑制スル為適當ナル措置ヲ  
講スルモノトス。

J.P.S. Dec. 110. 35-16-A  
Item 15

- 六、輸送船艘，月滑千噸，期六月  
現下於小船艘適宜，實情鑑：佛印支ヨリ、討日供給  
物資、確係、期之為八船艘、手當二付充分、策ノ詳不  
少、要了、珠=佛印支ヨリ、物資、石炭、鉄錫、燒灰石、米  
等、商古物資多半現狀鑑：配船統制、強化其他  
不定期船、手當等二付万全、措置ノ詳、尚定期航路  
存セサル以定期航路ノ開設在毎月モ、上入
- 七、本方業具現、為物資、資金、技術者等ヲ要セモ、  
就テ各地域別之步足促進、實狀等鑑：后、全般  
狀況考慮、実施、順序及程度ノ決定ルコト

正解  
事例

- 第一、航運政策要綱  
 現下、國際情勢、政策要綱  
 航運政策、鐵道、運河、國航  
 勢力、進出發展、期、左記三月、航運政策要綱  
 航運政策、鐵道、運河、國航  
 者、之、言定、航路、航運政策、航運政策、  
 第二、伸長航運政策、言定、航運政策、航運政策、  
 航運政策、鐵道、運河、國航  
 第三、航運政策、鐵道、運河、國航  
 航運政策、鐵道、運河、國航  
 第四、航運政策、鐵道、運河、國航  
 第五、航運政策、鐵道、運河、國航  
 第六、航運政策、鐵道、運河、國航  
 第七、航運政策、鐵道、運河、國航

備考  
 本航運政策、實施、高相手國、相來入、要  
 事、日本、來入地、重要性  
 、北、大阪、又、東京  
 、東京、來入、考證、  
 、考證、

J.R.S. No. 3510-A

Item 15

別紙才一號

第一

- 一、差當り概不左記航立路、開設ヲ圖ルモノトス  
一、横浜サイパンバラオーディアリーテリーフ  
二、スラバヤバタヴィア  
三、横浜サイパンバラオーディアラカバババ  
四、東京福岡台北廣東海口河内西貢ニガ  
五、ブルバタヴィア

第二

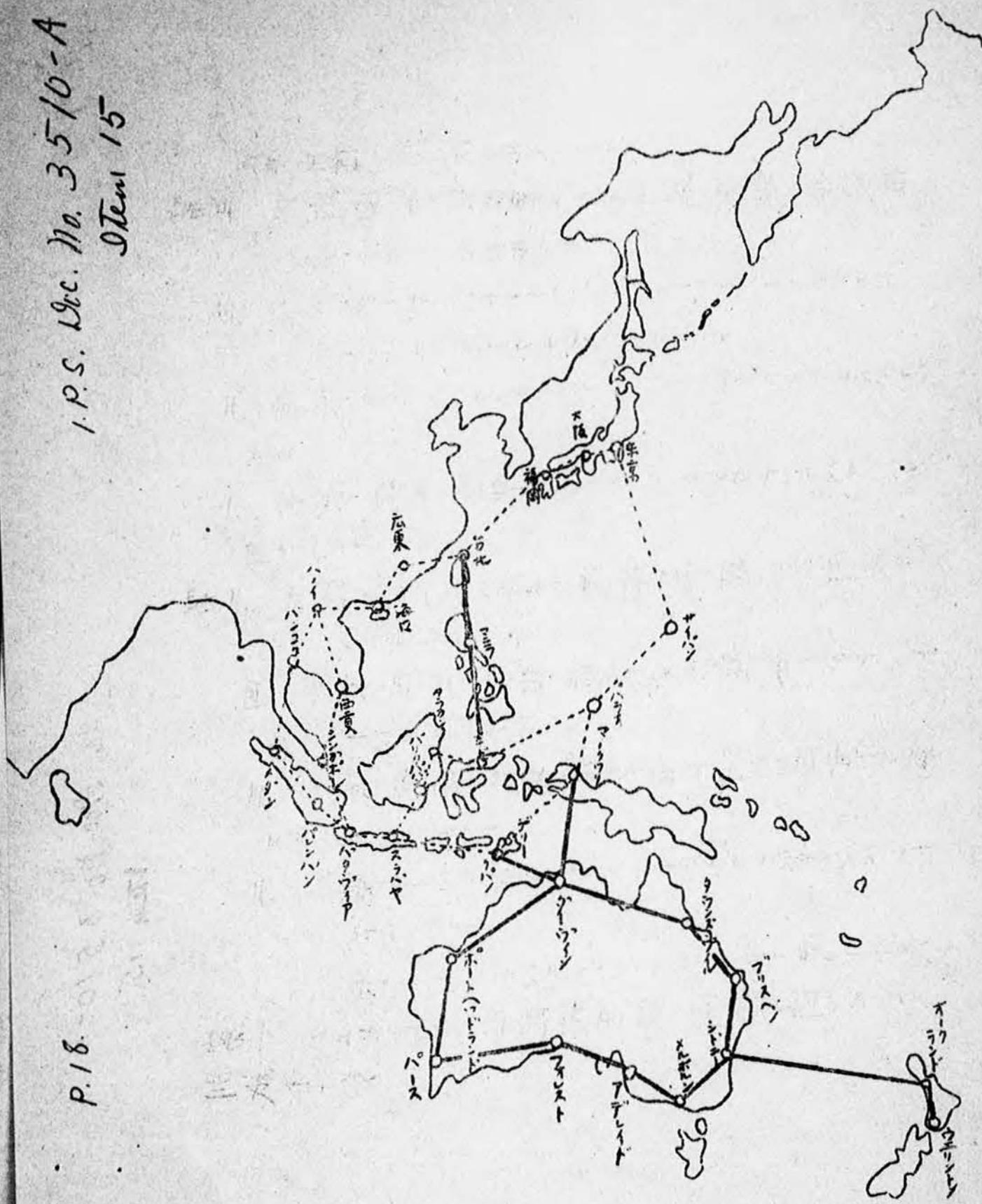
左記航立路、將來情勢ニ添々速々之が開設ヲ  
圖ルモノトス

- 一、東京福岡台北マニラオードラカニスラババ  
二、横浜サイパンバラオーディアラカニスラバ  
三、アリバベンドオーフランドエリントン  
三、バンダグリーンボートヘンドランドパースアレスト  
アテレイ、メルブルニシドニ

第三 格納庫其、他必需要件飛行場施設、建設権  
及使用権ヲ獲入得スルモノトス

I.P.S. Dec. No. 3510-A  
Item 15

P. 18.



P.S. Doc. No. 3510-A  
1945-10-10

別紙第二号

第一、航空、安全性確実性、確保ルニ西セル航空無線施設、航空路上適當ノ位置前設置セラバキモ、トス

第二、第一項、無線施設、外國施設、利用セラルベキモ、ナシ箇所日本ニ於テ之が施設ヲナモ、トス

第三、日本通信基地、直接通信ヲアシ得ル如強力な日本通信施設、外國主要基地、設置ルモ、トス

第四、第三項、実施困難ナル場合、日本ニ於テ外国通信施設、利用シ得ル如措置ヲ講ズル共、全般的に外國通信施設、充分利用シ得ル取極置ノモ、トス

第五、航空通信権益、実施ノ当リ一般通信権益、開闢ヲ考慮ルモ、トス

J.P.S. Doc. No. 3510-4

Item 15

別紙十三号

- 第一、航空実施上必要な気象判断(適正期令)当該象機内  
反之分通報機内所要箇所總計航路上二十二ヶ所沿線  
範囲地域一百一十人
- 第二、第一項記載地域内必要箇所外國象機内利用  
セラバセナリ十九場合日本象機内及通報機内設置人  
者八十人
- 第三、航空路端未要じ往向日本象機内及通報機内  
施設入七十人
- 第四、本三項実施困難な場合外國象機内日本  
連絡員常置セシ化如對某講話人セラ全般的現  
地外國象機内充分利用シ得シ如措置講話七十人
- 第五、日本象機内通報機内特左箇所施設入如對某  
講話人七十人
- 現地領事館等在外公館  
現地邦人經營施設
- 第六、氣象業務統一実施圖ラ(東北東象一元化、趣旨二)  
如措置入七十人

P. 20  
十

I.P.S. Doc. No. 3510-1  
(Item 15)

参考 極秘

南方航空政策大綱説明要旨

現下ノ國際情勢ハ皇國アシテ大東亜經濟圏確立、急務  
ト入念ノ痛感セムアリ。而して大東亜經濟圏確立  
ノ南方問題、解決ヲ俟ニアズンバ其ノ目的達成スルコト  
能ハサル、実情ニ鑑ミ南方ニ對ニ各般施策ハ一日モ速  
カナルニ如クサルモノト云フベ。航空权益設定、如キ他、乞  
ル权益、先駆トヒテ將ク又政治的軍事的活動、觸手トニ  
急速実現ニ要アル有効通切ル対策ソススムアリ。蓋シ  
航空权益ニ航路開設ニ止マス六ノ通信氣象、权  
益ヲ含マシル趣旨ナルヲ以テ軍事上、政治上、經濟上、  
意義極メテ深キモノアリ。加之通信氣象、而权益ハ將來通  
信網、氣象網ヘ、發展一素地タニベキニ想到スルトキ益々航  
空権獲得、重要性ニ注視セサルノ得也。而し海外、経営  
ヲ企圖スル列國が得失、打算ヲ超越レ國際航空政策、  
遂行ニ力ヲ致ス所以ニシテ其適例ノ英、蘭、独及米国ニ見ル。  
英國及和蘭、夙ニ歐洲ヨリ南方殖民地ニ至ル連絡航空  
路を開始シ孰ニモ蘭印ヲ從断シテ濠洲ニ達スル結果南  
方航空ハ殆ド英蘭兩国、独占タル形ナリ。而モ歐洲、戰  
乱ヨリ目下中絶、已四十キ、狀態ニアリ。一方独乙一九三  
年南米へ、航空路開始ヲ以テ海外進出、端緒ヲ開キ爾  
後支那国内航空权益獲得レ次デアフガニスラ、ノ経由レ  
テ支那ニ至ル北方線、開拓ニ着手キレ更ニ南方線ヲ実現盤

1900. 10. 35-1

谷三於テ蘭印進出様ヲ現し居タルモノ、如、會々歐洲戰爭、勃發ニ係り之が實況見ルニラサリシト雖、歐洲戰爭現及ハ獨乙、素志ヲ達成セシムベキ機運ヲ益、濃厚ナリ。又ノト不外、アヒ、否、之難ナ所リ、人更ニ米國ハ歐洲戰爭シラ契機トニテ南米大陸、航空支配ヲ獨占セントル、態勢力整ヘ、又況米航會社、路線ヲ延長ニテ蘭印ヲ其、航會勢力下ニ置ケンナル、意圖アルコトハ現ニ比律賓蘭印間、航空実施ニ見ルを明カナベシ。

然ハ、英國國際航會ハ過般実施ヲ見ルニ至リタル日本間定期航會ヲ以テ漁力ニ其、面目ヲ保持スル、實狀ニテ大東亞新体制確立ヲ急務トスル今日誠ニ寒心ニ堪ヘサルモノアリ。

宜ヒク國際航會殊ニ南方航空、重要性ニ鑑、之速力、對南方航空政策大綱ヲ定メ以テ該勢力、打破、南方大空制覇、實現、萬能セサル可リス。

10. 22

極秘

参考 泰國三對外航空政策實施委員會於昭和一五八 三三  
在海外之泰五省會議決定

A

Q. P. S. No. 3550-A  
Date 15

日泰間提携利益關係十力安入限下事能心體之且大東  
亞圈建設國策即應之南經濟政策安綱並之南  
航空政策大綱主旨基年泰國三對外會全國民間航空勢  
力擴充強化概不左記依此指置入心モト入

### 記 記

#### 第一 方針

- 一 日泰民間航空是攜手立眼上日本航空勢之認  
識之以下共泰國民間航空ヲ支援之日本邦航空之  
勢力泰國三對外進展企圖之モト入
- 二 前項協定於航空開解有之通信施設並氣象  
施設進出之モ企圖之如指置入心モト入

#### 第二 要領

- 一 日本民間航空勢力認識之以下為泰國有力者  
之差向別紙三依此招聘之モト入
- 二 泰國三對外日本民間航空勢力進出之  
諸項付行之モト入
  - (1) 航空輸送事業
    - (1) 全國上泰國上之始航之路擴充強化  
之本線ノ根幹トニテ泰國三於丁ル日本  
航空勢力發展企圖之英佛等既  
成航空勢力驅逐之努力モト入

p. 23

J. P. S. No. 3510-A  
ITEM 15

- (1) 泰國航空会社ヲテ差遣リ盤谷＝河内＝慶寧＝  
台北線、盤谷＝シガラ＝新嘉坡線及盤谷＝  
蘭貢線、經營セムコトシ之技術的指導ニ  
平ナル顧向？採用セムル共ニ本邦ヨリ之導線路  
、運航ニ平スル機材ヲ提供スルモノトス
- (2) 泰國航空会社ニ對スル機材提供ニ當テハ日泰  
間、政治情勢等ヲ考慮、上心平ニ應ジ機材  
ヲ現物出資シ合辦会社、形態ヲ採ル様指  
導スルモノトス
- (3) 泰國ニ對スル資材提供ニ當テ泰國側ニ於テ希望  
スル場合ニ於テハ之ニ要スル費用ヲ泰國ニ於テ生  
産セラル米、錫、コム等、物資ヲ以テ充當スルコ  
トヲ得ル様措置スルモノトス
- (4) 泰國航空会社支配人「ヤンソン」仕事滿了後  
ニ於テハ泰國人ヲ之が後任トス様勧説スルトキ  
將來ニ於テハ前号ニ依ル本邦人技術顧向？シテ  
泰國民間航空事業經營、航空施設、計画等  
ニ參列セムルヤク指導スルモノトス
- (2) 航空写真事業
- (1) 泰國產業開發計画ヲ支援スル為日本側ニ於  
泰國航空写真撮影事業、培養指導スル  
トシ之ニ要スル資材人員ヲ泰國ニ提供スルモノ  
トシ前号ノ資材及人員ヲ日本側ニ留保シスル場合  
ニ於テハ泰國有事、際ハ泰國政府、徵發ニ應

1940. 10. 35-A  
15  
Item

" ブラジル大機器指置スルモトス

(3) 航空機製造事業

- (1) 泰國上向ニ塑入的取極ラジカル整合飛行場  
於今大日本航空会社修理工場，建設ヲ速カラ  
シムト共ニ本修理工場ヲ利用シ本邦航空機  
並ニ本邦ヨリ泰國ニ賣却セル航空機其外泰國  
側，希望元航空機，修理ヲ行モトス
- (2) 前号，修理工場ハ漸次之，拡充。将来成  
可，運ニ本工場ニ於テ泰國國內航空ニ使用ル  
小型航空機，製作，行モトス指置スルモトス
- (3) 泰國於テ航空機製造工場設立，場合於  
テハ前号，修理工場ヲ現物公資シ之ヲ基礎  
シテ，製造工場，建設ヲ計画シ本邦，技術的指  
導ヲ受ケシムトク指置スルモトス

(4) 航空機來貢

- (1) 日泰航空條約第十六條，主旨基泰國學  
生ヲ本邦航空機來貢養成所ニ於テ養成入  
トス

P. 25

J.P.S. No. 3510-A  
Item 15

P.26

-01

1.5

- (口) 前号、場合於今人夏ハ機器工、通信工、  
合計十名内外、養成ニ要スル者用、大部分日本  
(八) 側ニ於テ員警スル如ク措置スルモノ入  
航空機乗員、養成ニ當ル、徒歩教育ヲ併考  
慮シ泰國ニ於テ本邦修理工場、乗員ヲ補充得  
ル如ク措置スルモノ入  
(一) 特未必要ニ應シ泰國航空會社技術顧問ニ補佐  
員ヲ配置シ泰國ニ於テ航空機乗員ヲ養成  
得ル如ク措置スルモノ入  
(5) 航空保安施設  
泰國內盤谷、叻沙及シゴーニ本邦航空路保  
安ニ必軍下中波無線導航施設、設置権ヲ獲  
得スルモノ入  
前号、施設ハ軍ニ應シ泰國航空機ニ計ニテモ  
航空保安上、協力ト爲スモノ入  
(四) 前号ニ附帶シ通信機器並ニ航空計器、組立並ニ修理  
工場ニ設置スル如ク措置スルモノ入  
(八) 現在、泰國ニ於テ短波放送ニ計ニ本邦機器進  
出會、確保スル共ニ本邦航空路保安用ニ資スル  
爲五。KW短波放送設備、泰國ニ提供スルモノ入  
(二) 前記各項号、取締交渉上、軍了の場合ニ於テ五KW短波  
電信送信機一台、寄贈シ且シ泰國、希望スル値段ニ  
于前号、短波放送設備ニ提供スルモノ入  
(六) 航空氣象施設ニ計ニハ追予定スルモノ入

IPS. 19cc. 110. 3510-A  
Jewm 15

別紙

- 一、本年九月中旬頃泰國總理大臣最高顧問「ハラ」殿、  
空審議會委員長、農林大臣兼航空部長「アラバキヤ」  
大佐、泰國青少年團長「アラニー」中佐及泰國航空會社  
取締役會長「ハラ」殿(不定)招聘不<sub>レ</sub>上人
- 二、前項泰國使節、招聘八帝國平行輸會會長及  
大日本航空株式會社總裁、名ヲ以テ行<sub>レ</sub>上人
- 三、泰國使節=對三十八日本、新興產業特ニ航空  
機關係工業、現狀ニ對<sub>レ</sub>認識ヲ深カ<sub>シ</sub>ムニ力爲  
特ニ指定不<sub>レ</sub>製造會社ニ於<sub>レ</sub>ハ<sub>シ</sub>要ナ<sub>シ</sub>宣傳資料  
之作成<sub>シ</sub>ト六二工場ノ縱橫也<sub>シ</sub>公<sub>シ</sub>如<sub>ク</sub>措置不<sub>レ</sub>セ  
上人
- 四、泰國使節=對三十八日滿支、現狀ヲ<sub>シ</sub>想察  
セシ大東亜新秩序、ヨリ理解<sub>シ</sub>者<sub>レ</sub>ハ<sub>シ</sub>公<sub>シ</sub>如<sub>ク</sub>  
指揮不<sub>レ</sub>上人
- 五、泰國使節=對三十八民間航空ニ於<sub>レ</sub>適當  
之表彰、措置<sub>シ</sub>講<sub>シ</sub>様考慮不<sub>レ</sub>セ<sub>シ</sub>上人

極私  
參考

J.P.S. Oct. No. 3510-4

Oct 15

第一航空路

一、<sup>七</sup><sub>七</sub>大<sup>七</sup><sub>七</sub>一<sup>七</sup><sub>七</sub>銀

1. 我南洋線之長橫浜二三月一月  
之線開港之大

2. 前項場合之有二三月間航空館之何事  
之處之處

3. 只有二三月間之開港成之事  
之處

4. 二三月經由之開港成之事  
之處

5. 二三月經由之開港成之事  
之處

卷之三

1. 在向葡萄糖 $\alpha$ - $\beta$ 甙內於 $\alpha$ - $\beta$ - $\text{H}_2\text{O}$  =  $\text{C}(\text{H}_2)$  =  $\text{H}=\text{H}_2$   
 2. 葡萄糖 $\alpha$ - $\beta$ 甙與水 $\beta$ - $\text{H}_2\text{O}$  =  $\text{C}(\text{H}_2)$  =  $\text{H}=\text{H}_2$

蒲志、小蒲領、今人、鳥內航空諸、當值陸地兵、總

p. 28.

10.29

1935.10.11. 35/0-A.

第十一章 航空路權及空運

口日本航空機（名）八十架，總價未定，開  
往滬洲方面，並長江、黃河各八十架。  
1. 日本側於航空路權，據得小意圖  
下日本航空機八十架，今空飛至八十架。  
2. 各項場合於中國側（名）希特勒之場合於日本側，  
相互乘入，達前之空運於十六年，事實上日本側航空機  
之方的那人之如指置空飛至八十架。  
3. 不一，日本總經營（中國）會辦航空會於二十之年，  
權利（有）少（無）中國政府（許可）准許（證），  
一旦（此）場合（日本）會辦航空會於二十之年，  
空運力（把握）二十架，八十架。  
備考：（空飛）日本總會辦印東北鐵路局  
（東北鐵路局）場合（以下）總會辦印東北鐵路局  
（總）（二十）起長（兩）周線（盤石經）  
續（七）文蘭印循環航空路，開設（軍械）八  
此（場合）於（俄）方（開）側（列）滿（鐵）  
大阪、東京共八十架，參認（考慮）之八十架。

J. P. S. Doc. No. 3510-4  
Item 15

重要記下以下

日本航空機（日本）之線（時本之關）

由濟州方面延長之，全長至一丈

第二 航空路權及實施

一、日本側

1、日本側於濟州島上獲得之意圖  
下日本航空機由日本來今麥克奈爾之

2、前項場合於日本側（新嘉坡）之場合於日本側  
相互來往，前上之實施，於日本側上日本側航空機  
之方的，其人之如措置之，

3、不以日本總經理（新嘉坡）會辦航空會社之為  
權利（有此之類）南國政府許可進行之，  
上此場合（日本會辦航空會社）於日本側之  
會實力把握之，（新嘉坡）

（新嘉坡）之蘭印着陸過之關側而代  
（新嘉坡）場合（或）蘭印東側（總經理）  
經由（新嘉坡）之長之兩邊（船底）  
設立之蘭印循環航路，開設平水之  
此一場合於新嘉坡側（新嘉坡）經由、  
大阪、東京來人，參認，考慮之，

### 一 島内線

1. ナモル島内線、日葡合辦航空会社ヲ運行  
經營ニ当ラシムモノトス
2. 日葡合辦航空会社ハリハニハニ線、外伊要  
ニ應シ濠洲線ヲ開設スルコトアリモトス  
是ニ此ノ場合ニ於テ日本側ト通商ヲ避ケル如ク惜也  
スルモノトス
3. 日葡合辦航空会社資本參加方法ハ別定ム
4. 日葡合辦航空会社、航空機ハ日本製、モヲ供給スルモ  
トス

#### 備考

1. 将來沙宣ニ應シ航空爲其載影事業、進ナ  
ラ考慮スルモノトス
2. 無線及飛行場等、保守施設ハ沙宣ニ應シ  
日葡合辦航空会社ヲ保有管理セムコト  
アリモトス

### 第三 航空交涉、方針

1. 本航空政策実現、為ニ先テ葡國政府と間ハラオヒ  
テリハニ線、經營並ハニ島内航空路、開設(日葡合辦  
航空会社)、營業開始ニシテ入譯譯、遂ラモトス
2. 共同、交涉を結ニ至リ後、和蘭政府、对于ハラオヒ  
テリハニ線実現、為ニ蘭印署陸又ニ空通過ヲ交渉スルモノトス
3. ハニハニハニ線開設、開ルテハ日葡交涉成立後、通ニ  
時機ニ葡國政府ヲニテ和蘭政府ニ交渉セムモノトス

J.P.S. Dec. 10. 3510-A  
Item 15

備考:

1. 蘭印西迴線(盤橋經由)=開三三八既定方針  
=基本交涉ヲ促進スモトス
2. ハラオヨリ一線、蘭印經由交涉ニ當テ、  
為ニ得ハバハラ子經由蘭印東迴線、開設ヲ  
全國スルモトス
3. 蘭空ハリスホニ飛行場ヲ英(?)及知廉=計  
開放シ居リ

監 明 證  
 「ワシントン」文書局 第一號  
 國際検察部 第三五一〇 A 號ノ一五

3510-A 15

## 眞理及ビ公正ニ關スル證明

余、佐藤朝生ハ余ガ下記ノ資格ニ於テ、即チ内閣事務官トシテ、日本政府由公的關係ニ在ルモノナルコト、茲ニ該官吏トシテ余ガ茲ニ添付セラレタル、四五年ヨリ成ル、千九百四十年ノ昭和十五年ノ九月三日付、下記姓名、即チ對兩方鐵道施設ニ關スル件ノ文書ノ保管ニ任ジ活ルコトヲ茲ニ證明ス。

余ハ更ニ添付ノ記録及ビ文書方日本政府ノ公式監督ナルコト、茲ニ右ガ下記名稱ノ省又ハ部局ノ公式監督及ビ職ノ一部ナルコトヲ證明ス。(若シアラハ職者號又ハ引用、其ノ他公式監督又ハ職ニ於ケル該文書ノ成規所在ノ公式名稱ヲモ特記スベシ)

内閣官房

千九百四十七年ノ昭和二十二年ノ十二月十九日

東京ニ於テ署名

當該官吏署名  
佐藤朝生石ノ省ノ公的資格  
内閣事務官證人  
井川克一

Cert

證 明  
「ワシントン」文書局 第三五二〇號ノ一五  
國 檢 檢 察 部

3510-A 15

## 典據及ビ公正ニ認スル證明

余、佐藤朝生ハ余ガ下記ノ資格ニ於テ、即チ内閣事務官トシテ、日本政府由公的關係ニ在ルモノナルコト、並ニ該官吏トシテ余ガ茲ニ添付セラレタル、四五年ヨリ成ル、千九百四十年ノ昭和十五年ノ九月三日付、下記姓名、即チ對兩方鐵道施設ニ關スル件ノ文書ノ保管ニ任ジ活ルコトヲ茲ニ證明ス。

余ハ更ニ添付ノ記録及ビ文書が日本政府ノ公式監督ナルコト、並ニ右ガ下記名稱ノ省又ハ部局ノ公式監督及ビ職ノ一部ナルコトヲ證明ス。(若シアラハ職者號又ハ引用、其ノ他公式監督又ハ職ニ於ケル該文書ノ成立所在ノ公式名稱ヲモ特記スベシ)

内 閣 官 房

千九百四十七年ノ昭和二十二年ノ十二月十九日

東京ニ於テ署名

當該官吏署名欄 佐藤朝生

右ノ者ノ公的資格 内閣事務官

證 人 斉川克一

Cert.

3510-A. 15.

余、HENRY SHIMOJIMAハ、余ガ聯合國最高指揮官  
總司令部ニ關係アルモノナルコト、茲ニ上記題  
名ノ文書ハ余ガ公務上、日本政府ノ上記署名宣  
吏ヨリ入手シタルモノナルコトヲ茲ニ證明ス。

一千九百四十七年／昭和二十二年／十一月十九日

東京ニ於テ署名

氏名　　Henry Shimojima

右ノ者ノ公的資格 Investigator I. P. S.

證人　　J. F. Munroe

Cert.